

積立て 財源確保

決算の概要

今定例会は、平成20年度の決算を審議するため特別委員会を設置し、一般会計のほか特別会計、水道事業会計などを慎重に審議した結果、各会計とも原案どおり認定しました。

歳入は、町税の個人分が税源移譲などで増加したものの、法人分は自動車関連企業の業績低迷で、全体として前年度比6億6000万円（71.1%）減少しました。

なかでも町債が前年度比16億円（1177.9%）の大幅増となったのは、給食センター改築、幸田小学校増築、中央公園整備、災害復旧の起債に加え、景気の悪化により減収補てん債と臨時財政対策債で11億円

借り入れたことである。

歳出では、子ども医療を中学校卒業まで無料化拡大給食センター移転改築、幸田小学校増築、道の駅建設農村振興総合整備事業、相見・野場土地区画整理組合補助事業などが計画どおり実施されました。

積立金は全体で12億2600万円、前年度比5億1800万円（73.3%）の増となった。

なお、平成20年度の決算総額は、一般会計と特別会計を合わせて、歳入206億1206万円、歳出198億9250万円となり、歳入で1.8%、歳出で0.8%それぞれ減少しました。

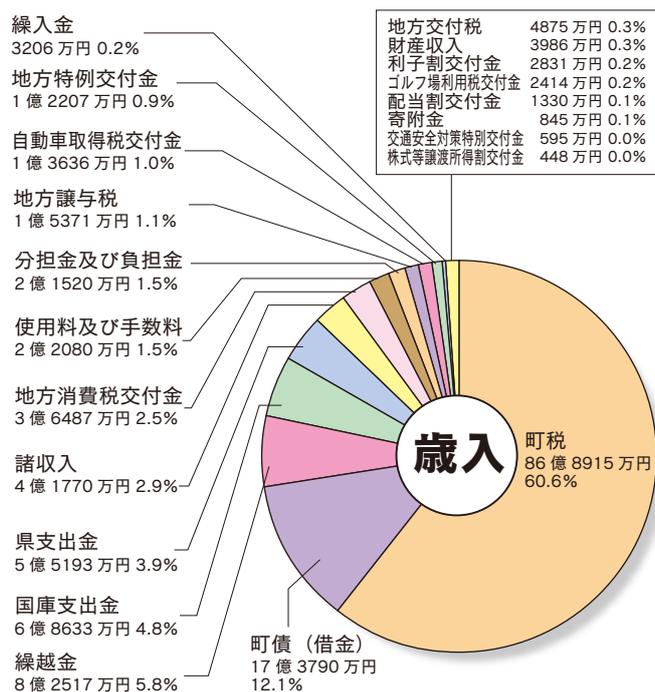
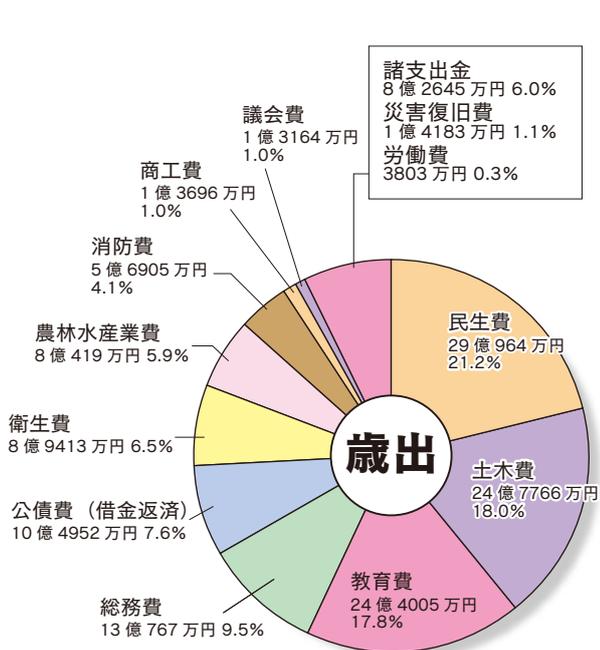


幸田小学校の校舎を増築

一般会計の決算額

歳出 137億2682万円

歳入 143億2646万円



（反対2：賛成13で認定）

将来にそなえ

12億円

平成20年度 決算 徹底検証

主な質疑

- Q** 財政調整基金と都市施設整備基金に、減収補てん債であてたのはなぜか
- A** 新駅を設置していくためには必要で、住民サービスを低下させない範囲内のもの。
- Q** 財政力指数が、前年度の1.65から1.51になったが、どのように影響があらわれたか。
- A** 極力住民生活に影響しないように、大幅な減収補てん債をおこし、数年間持ちこたえられる財源にする。
- Q** 新駅は見切り発車。なぜ住民合意を目指さぬか
- A** 3つの駅を同時にきちとやっていくことが課せられた使命である。
- Q** 地域振興資金から、8月末豪雨災害の被害に対し支援があつたか。岡崎市には災害見舞金が支給されている。
- A** 貸付を受ける条件はあつたが、減収補てん債が活用できたので見送つた。
- Q** 学校給食費の滞納が激増している。生活実態を把握し、就学援助制度を活用すべきだ。
- A** 収入減による滞納が増えている。調査し対応する。
- Q** 職員の接遇研修はどうなっているか。
- A** 主に若手職員におこなっているが、全職員を対象に接遇研修を取り組む。
- Q** 奨学金支給対象者が少ない。収入基準の周知を。
- A** 申請が18人あり8人が対象となった。今後基準の周知をしていく。
- Q** 緊急メール配信システムの利用はどのくらいか。
- A** 小学校が80.6%、中学校が65.6%の登録率であり、児童・生徒の安全確保に努めている。

建設事業の 主なもの

- ・給食センター移転改築 7億8700万円
- ・道の駅建設事業 1億4300万円
- ・幸田小学校増築 2億900万円
- ・道路新設改良 野場横落線、荻谷菰1号線 1億1500万円
- ・相見・野場土地区画整理組合補助事業 両地区への補助金 2億3800万円
- ・消防ポンプ自動車購入 4200万円
- ・先導的都市環境形成促進事業 1100万円
- ・新駅周辺駐車場の整備

特別会計・企業会計の決算額

(▲は減)

会計名		歳入	歳出	差引	採決の状況	
特別会計	土地取得	4億5488万円	4億5488万円	0円	全員賛成で認定	
	国民健康保険	27億153万円	26億4825万円	5328万円	反対2:賛成13で認定	
	老人保健	1億8009万円	1億7971万円	38万円	反対2:賛成13で認定	
	後期高齢者医療	2億2751万円	2億2524万円	227万円	反対2:賛成13で認定	
	介護保険	11億8868万円	11億6089万円	2779万円	反対2:賛成13で認定	
	駅前土地区画整理	2億7473万円	2億6597万円	876万円	全員賛成で認定	
	農業集落排水事業	3億5446万円	3億4691万円	755万円	反対2:賛成13で認定	
	下水道事業	9億371万円	8億8384万円	1987万円	反対2:賛成13で認定	
企業会計	水道事業	収益的収支	6億8776万円	6億5647万円	3129万円	反対2:賛成13で認定
	資本的収支	2億1457万円	2億5045万円	▲3588万円		